令和５(2023)年「正覚寺報」６月号

◆お 知 ら せ

正覚寺『慶讃法要』は、総代様方･御門徒の皆様方の厚い御懇念の賜により、五月二十日(土)無事勤修させて戴けました。

以下は、六～七月の日程のご案内です。

① 仏壮お聴聞の会 ６月3日(土)19時半～
② 仏教婦人会例会６月16日(金)19時半
③ 滋賀組「十六日講」７月16日(日)正覚寺
午前９時半受付、10時法要、引続き法話

◆慶讃法要を振り返って

正覚寺『親鸞聖人御誕生 850 年･立教開教 800 年慶讃法要』は、おかげさまで天候にも恵まれ、親子でご参加戴いた降誕会は賑やかに営むことができました。降誕会で見た花の苗植えに熱中する子供たちの姿こそは仏様のお姿だと住職･役員共々心が和みました。コロナで三年間中止していたのが夢の様でした。

◆新しい「領解文」について)

2023 年１月 16 日、ご正忌報恩講御満座で発布された「新しい領解文(浄土真宗のみ教え)」については、全国の御門徒･僧侶の皆様より多面的に前向きなご関心とご意見を頂戴して参りました。以て、お法りは、何よりもわかりやすくしたいとの第一目標は達成できたのであり、その点に関する限り共々に慶ばせて戴きたいと思われます。

そうはいいながら、本質的な浄土真宗のお法り(宗意安心)について、誤解を呼びかねない表現が見出されたこともまた動かしがたい事実であります。

これについては、権限を越えた部門による指摘をそのままにしておかずに、ご責任部門である勧学寮で集約して御門主に穏やかに意見具申され、御門主様自らにより緩やかに見直されるご意思を尊重してお待ち申し上げたいというのが全国の浄土真宗の末寺末端の要望として相応しいのではないかと承ります。

代表的なものとして、浄土真宗のお法り(安心)については、**「私の煩悩と仏のさとりは本来ひとつゆえ『そのまま救う』が弥陀のよび声」**という構造は、浄土真宗の法義に則していない懸念が否めません。

私たちはすでに宗祖親鸞聖人の「仏願の生起本末を聞きて疑心あることなし」で、本願救済の理由を戴いている(信文類末)のですから、本願生起の理由は、煩悩具足の私にこそあることを踏まえて、領解の表出は、**「煩悩具足　出離の縁なき　わが身ゆえ『そのまま救う』が弥陀の喚び声」**という趣旨の文脈等によって戴くのが妥当かと解されます。(Ref3/25 付「新しい領解文に対する声名

尚、旧領解文の「安心」「報謝」をもとに称名を信後の報謝に限定する「浄土真宗の教義そのものの妥当性もこの機会に見直されることが要望されるところであります。

◆最後に先の総長は、慶讃法要勤修により目的を達成したとしてご退任になり、臨時宗会でこのほど池田行信総長が選出されましたのでお知らせ致します。合掌。

親鸞さま　ご一代記　No9

花岡大学･文

三人は、石を枕に寝ました。
　なむあみだぶつ
　なむあみだぶつ
　･･････
　･･････
あなたは、誰です？
はい！
親鸞と申します。
あっ！
あの名高い親鸞様でしたか･･･
私は日野左衛門と申します。
かねてお話をお聞きしたいと思っていました。
私のような曲った心の悪者でも
お助けいただけるのでしょうか。･･･
やさしい親鸞のお話を聞いて
主人がすぐにお弟子になったことは
いうまでもありません。
こうして念仏の教えは
ぐんぐん広まっていくばかりでした。
親鸞の教えが盛んになることに
一番腹をたてたのは弁円という山伏でした。
弟子も減るし、お祈りやまじないを
頼みに来ていた人たちも
殆ど来なくなってしまったからです。
おのれ親鸞め！
京を追われた罪人のくせに生意気な！
もはやのさばらしてはおけん
俺らの力で祈り殺してやるぞ！
稲田の近くにある板敷山のてっぺんで
呪いの祈りがはじまったのは
それからしばらくしてからでした。
なにとぞにっくき親鸞のいのちを
たたきのめし給え。
だが、そんな勝手な祈りなど
いくら神様でも聞いてくれる筈はありません。
ところが、そこへ
見張りの弟子が駆けつけてきて知らせました。
ほどなく親鸞はこの山の峠を通ります。
祈りのききめだ！
待ち伏せてやっつけてしまえ
抜かるなよ！
二人の弟子を連れて峠を登ってきた
親鸞の前へ
突然若い男が飛び出してきて言いました。
私は弁円の弟子ですが
弁円はあなたを殺そうとして
峠の途中で待ち伏せています。
こっちの山の中の小道を通ってお帰り下さい。
なぜ、知らせてくれたのですか？
それとなくお話を聞き
親鸞様こそほんとに立派な方だと
わかったからです。
ありがとう。
お言葉に従います。
手ぐすねをひいて
待ち構えていた弁円たちが
待ちぼうけをくったことは
いうまでもありません。（つづく）